

BIM/CIM 推進委員会（第 13 回）  
議 事 要 旨

1. 開催日時：令和 7 年 2 月 25 日（火） 15 時 00 分～17 時 00 分
2. 場 所：中央合同庁舎第 3 号館 11 階 インフラ DX ルーム 及び Web 会議
3. 議 事：
  - ① BIM/CIM の進め方について
  - ② 建築分野における検討 WG（建築 BIM 推進会議）の活動状況について
  - ③ 今後の進め方について

主な議論の概要は以下のとおり

**（議事 1：BIM/CIM の進め方について）**

○令和 5 年度の原則適用以降、発注者が BIM/CIM を進める上で、どのようなソフトウェアの操作スキルを身につけていこうとしているのか知りたい。

○設計段階から施工段階へ自動的にデータ連携させていくためには、3 次元モデルを作る上で属性情報をどのように標準化していくのかが、今後の検討課題と考える。

○3 次元モデルから切り出した 2 次元図面に対して、CAD 製図基準の見直しをするコストと時間をかけるよりは、誰もが 3 次元モデルを使いやすくなるよう、その方策に対してコストと時間をかけた方が良いのではないか。

○3 次元モデルに設定した属性情報を活用した積算作業の省力化の取組は評価できる。さらなる効率化を目指すために、規格や条件といった仕様をどう積算に連携させていくか。BIM/CIM を活用して、どこまで積算に係る仕事を効率化・省力化していくことを考えているか。

○デジタルデータを活用した監督検査は発注者の仕事の効率化につながる。ただ今は受注者の提案が基であり、本来は発注者自らが仕事をどう変えていくかを考える必要がある。ツールをただ導入するのではなく、仕事を変えるためにデータの持ち方やアプリケーションの機能に係るルール整備の議論が必要。

○BIM/CIM 取扱要領については、過去を整理し良くまとめられている。今後定期的に更新、見直ししてほしい。

○電気通信や機械設備における維持管理におけるデータ活用について、データを分析して維持管理の戦略を立てるための体制、仕組みをどのように考えているか。

○海外調査について、カーボン、契約制度、CDE、いずれも有意義で重要なテーマであるので今

後も継続して調査してほしい。

○今後 BIM/CIM を進める上で、いつまでに何をどこまでどのような進め方をするのか、ロードマップ、今後の大きな方針を示してほしい。

○設計数量の算出に 3 次元モデルがほとんど使われていないようだがなぜか。5 次元（コスト管理）への展開や発注者から受注者へ見積もりを依頼する際の活用も想定されるので、3 次元モデルを活用した数量算出を普及させてほしい。

○土木工事、機械工事、電気工事が一体的に進行する現場でも別々に工事を発注、契約しているのが実態だが、各工事の工程を管理する上でコンソーシアムのような体制で BIM/CIM を活用して情報共有することが非常に有効であると思われる。

○監督検査について、発注者の視点でどのようにデジタル化していくかが重要であり、関連する要領等をデジタル化前提で見直す前向きな発想が必要である。

○設計業務において、概略設計や予備設計で多く行う比較設計で BIM/CIM を適用する効果が大きいと考えている。今回の受注者アンケート結果で、効率化への効果を実感している回答が少なく、逆に作業時間・手間が増えたという回答が多かったのは、詳細設計では比較設計を行う機会が少なく、効果があまり感じられていないことを示しているのではないか。

○2 次元図面を先行して作成し、その後 3 次元モデルを作成するコンサルタントが多いという結果は、2 次元図面作成時点で既に設計構造が決まっていて、今までの仕事の仕方を変えずに業務を進められることが理由であると想定される。3 次元への転換を推進するためにはロードマップを描く必要があり、その中で 3DA モデル（3D Annotated Model）の再検討もあると良い。

○土工で数量算出を行っているという事例が少ないことは非常に残念。3 次元 CAD で数量計算した場合でも、概略的に手計算して数値の誤りがないかは容易に確認することができる。一方、コンクリート構造物や鋼構造物においては 3 次元 CAD を使用した数量計算の難易度は高いが、欧米の先進ユーザーはやっていて、その効果は大きいと聞く。こうしたやり方を普及させていくためには、研修プログラムに初歩的なソフトウェア操作だけでなく、数量算出などの高度利用に関する内容が研修カリキュラムに加えられていく必要があると思われる。

○機械設備における BIM/CIM の取組について、機械設備と 3 次元モデルをリンクさせるという取り組みは非常に素晴らしいと思う。現場での点検に設備とリンクした IC タグ等を使用した事例もあるため参考にされたい。

**（議事２：建築分野における検討WG（建築BIM推進会議）の活動状況について）**

- ISO19650 では、EIR は Employer’ s Information Requirements ではなく、Exchange Information Requirements の略称として使われているので、その点に留意してほしい。
- 2025 年度中の BIM 図面審査の開始に向けた成果（案）の中で、「必要に応じ規則を改正」すると記載があるが、審査に関する規則を改正するのか。BIM 図面審査の基準が厳しくなることはないという認識で良いか。

**（議事３：今後の進め方について）**

- 令和 7 年度の BIM/CIM 推進委員会の体制について、港湾分野も含めることを了承した。

**（全体を通して）**

- 今後の進め方という点で、ロードマップが重要であるので、検討を進めていただきたい。

以 上